



# 東京ガス株式会社

## 2005年度第3四半期説明会

2006年2月1日

このプレゼンテーションに掲載されている東京ガスの現在の計画、見通し、戦略、その他の歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた東京ガスの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場、原油価格の変動ならびに天候の異変等があります。



## 2005年度第3四半期決算の概要

## 第3四半期決算総括(対前期実績)

### 対前年同期比 増収減益

#### <プラス要因>

- ・全用途におけるガス販売量の増
- ・コストダウンの推進

#### <マイナス要因>

- ・原油価格高騰に伴う原材料費の大幅増
- ・2005年1月料金改定の影響

#### ■単体第3Q経常利益 対前期要因分析

ガス売上の増	+365億円
原材料費増による収支悪化	▲600億円
固定費の減	+22億円
器具・受注工事益の減等	▲12億円
営業外損益(デリバティブ等)	▲11億円

単体経常利益 557億円→319億円 ▲238億円

(億円未満切捨て)

	FY05 1~3Q	FY04 1~3Q	増減
売上高	8,368	7,962	+406(+5.1%)
営業利益	460	715	-255(-35.7%)
経常利益	402	669	-267(-39.9%)
第3四半期純利益	274	434	-160(-36.7%)
為替(円/\$)	112.11	108.52	+3.59
原油(\$/bbl)	54.51	38.10	+16.41

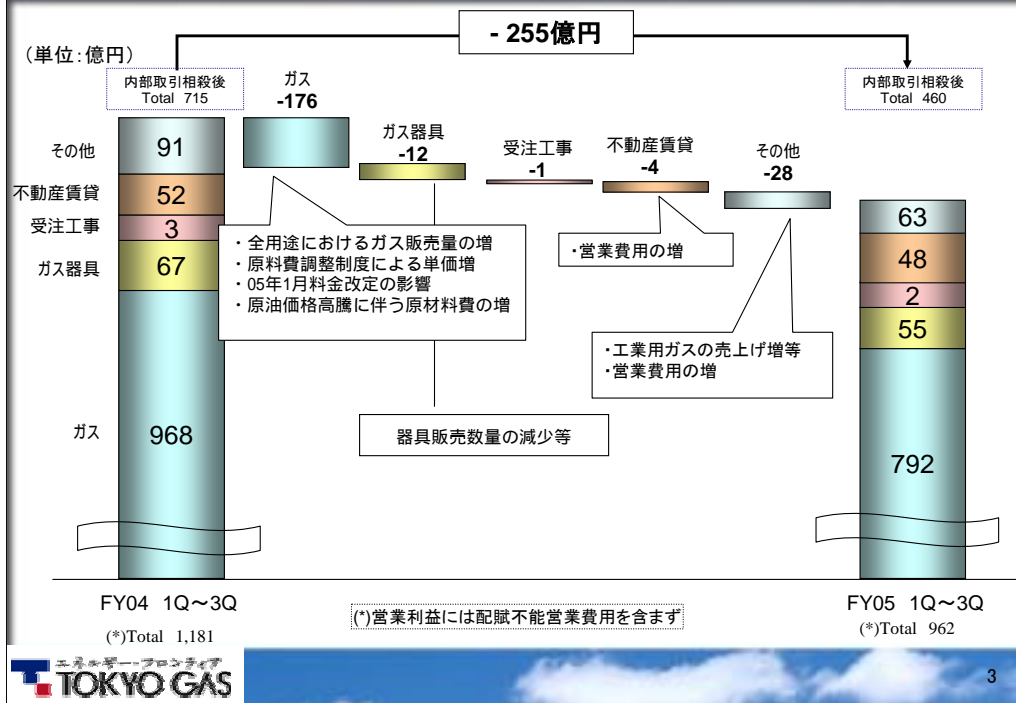
### 【第3四半期決算総括】

- ・本第3四半期は全用途においてガス需要が伸び、ガス売上高は増加しましたが、2005年1月に実施した料金引き下げの影響ならびに原油価格の高騰に伴う原材料費の増加により、対前年同期比で増収減益となりました。

第3四半期の業績は次のとおりです。

- ・売上高は前期比+406億円、5.1%増の8,368億円
- ・営業利益は前期比▲255億円、35.7%減の460億円
- ・経常利益は前期比▲267億円、39.9%減の402億円
- ・四半期純利益は前期比▲160億円、36.7%減の274億円となりました。

# 営業利益増減要因(対前期実績)



## 【セグメント別営業利益増減要因】

### <ガス部門>

販売量増および原料費調整制度による単価調整等により売上高増となったものの、料金引き下げの影響ならびに原油価格高騰に伴う原材料費の増加等があり、対前期比で176億円減の792億円となりました。

### <ガス器具部門>

販売数量の減少等により売上げが減少し、12億円減の55億円となりました。

### <受注工事部門>

売上げの減少を営業費用の圧縮でカバーした結果、1億円減少の2億円となりました。

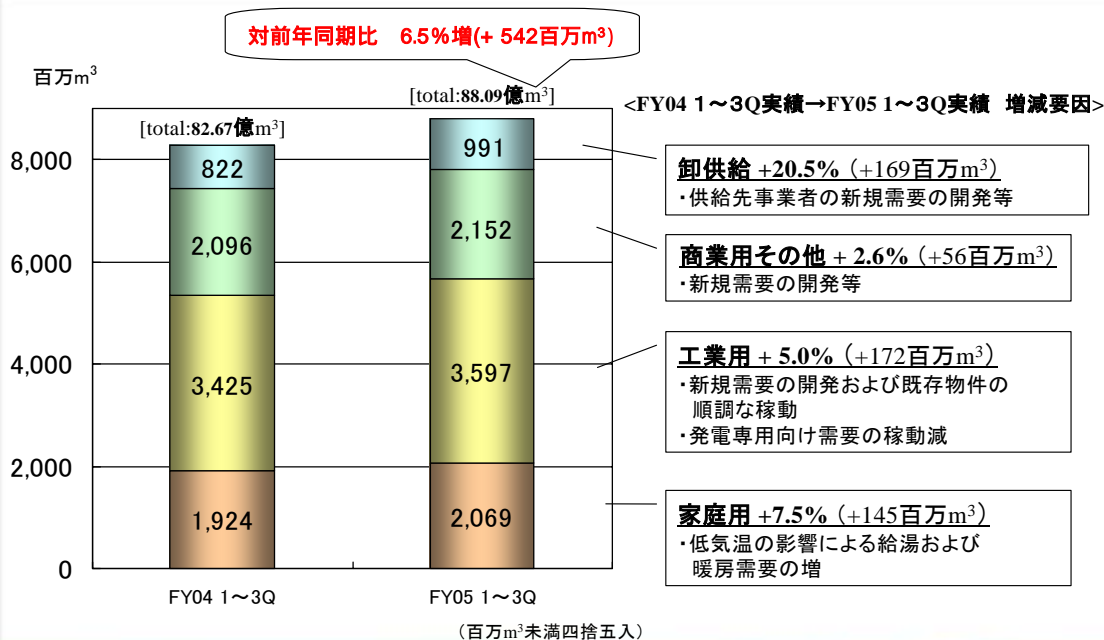
### <不動産賃貸部門>

営業費用の増加により、4億円減の48億円となりました。

### <その他部門>

工業ガスの売上げ増等により売上げが伸びましたが、営業費用も増加し、28億円減の63億円となりました。

# ガス販売量実績(連結)



## 【ガス販売量実績】

・今期のガス販売量は、前期比+5億42百万m<sup>3</sup>、6.5%増の88億9百万m<sup>3</sup>となりました。

・用途別増減要因は以下のとおりです。

### <家庭用>

気温が低く推移した影響等により、+1億45百万m<sup>3</sup>、7.5%増の20億69百万m<sup>3</sup>となりました。

### <工業用>

発電専用需要の減少はありましたものの、新規需要の開発および既存物件の順調な稼動等により、+1億72百万m<sup>3</sup>、5.0%増の35億97百万m<sup>3</sup>となりました。

### <商業用その他>

新規物件の獲得などにより、+56百万m<sup>3</sup>、2.6%増の21億52百万m<sup>3</sup>となりました。

### <卸供給>

供給先事業者様の取り引き量の増加等により、+1億69百万m<sup>3</sup>、20.5%増の9億91百万m<sup>3</sup>となりました。



## 2005年度通期収支の見通し



## 通期見通しの修正について

### 対中間決算発表時(10/31)見通し比 増収減益

#### <プラス要因>

- ・11月、12月低気温に伴う家庭用ガスを中心とした販売量の増

#### <マイナス要因>

- ・さらなる原油価格高騰に伴う原材料費の増
- ・天候デリバティブ契約等に伴う支払い増

[システム開発プロジェクト中止に伴う特別損失の計上]  
特別損失額：50億円

#### ■単体経常利益 対10/31見通し比 要因分析

ガス売上の増	+190億円
原材料費増による収支悪化	▲304億円
固定費の減	+23億円
天候デリバティブ等による営業外収支悪化	▲60億円

単体経常利益 890億円→740億円 ▲150億円

(億円未満切捨て)

	FY05見通し (2/1時点)	FY04 実績	FY05見通し (10/31時点)	対FY04 実績	対10/31 見通し
売上高	12,680	11,907	12,480	+773 (+6.5%)	+200 (+1.6%)
営業利益	980	1,453	1,060	-473 (-32.6%)	-80 (-7.5%)
経常利益	850	1,328	990	-478 (-36.0%)	-140 (-14.1%)
当期純利益	540	840	670	-300 (-35.7%)	-130 (-19.4%)
為替(円/\$)	112.83	107.55	109.74	+5.28	+3.09
原油(\$/bbl)	55.04	38.77	53.94	+16.27	+1.10
気温(°C)	16.2	17.1	16.7	-0.9	-0.5



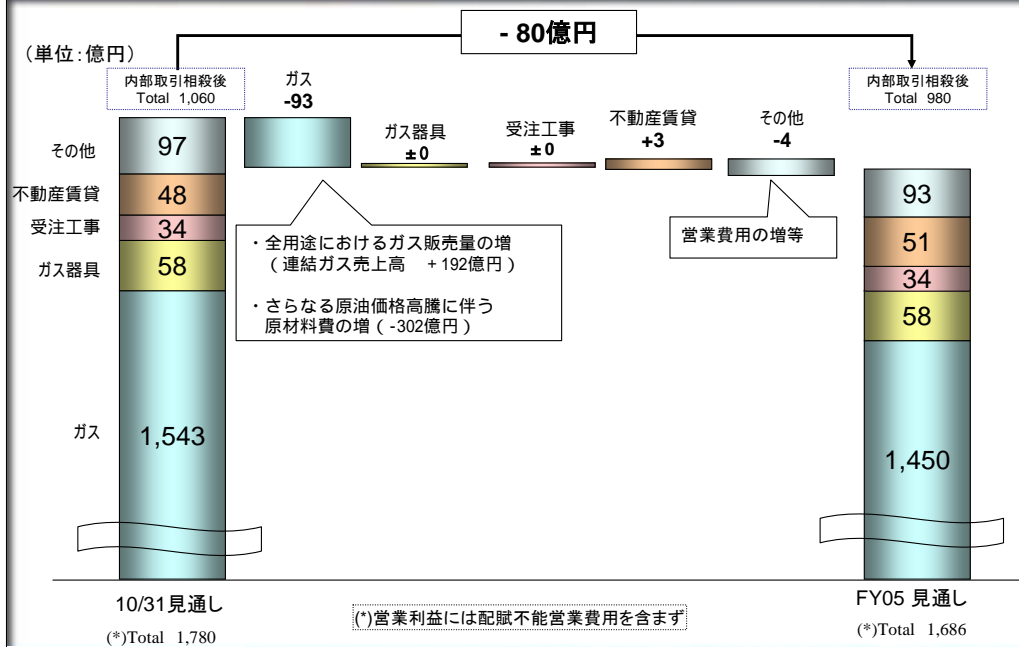
\*1月以降を115円/\$、\$57/bblと想定

6

### 【通期見通しの修正について】

- ・売上高は中間期の見通しに比べ、+200億円、1.6%増の1兆2,680億円を見込んでおります。
- ・これは、主に家庭用を中心とするガス販売量の増加に伴うガス売上高の増によるものです。
- ・費用面では、さらなるコストダウンによる固定費の削減に努めますが、円安および原油高に伴う原材料費が大幅に増加し、営業利益ベースでは中間期の見通しに比べ▲80億円、7.5%減の、980億円となる見込みです。
- ・経常利益は、中間期の見通しに比べ、▲140億円、14.1%減少し、850億円となる見通しです。この主な理由は、天候デリバティブ等による営業外収益の悪化によるものです。
- ・当期純利益は、中間期の見通しに比べ、▲130億円、19.4%減少し、540億円となる見通しです。これは、経常利益の減少に加え、「お客さま情報の一元管理・共有化による、電話受付・機器販売などのお客さま接点業務の高度支援」を目的に開発を進めてきたシステムの開発を中止することになり、50億円の特別損失を計上する見込みとなったことによるものです。

## 営業利益増減要因(対10/31見通し比)

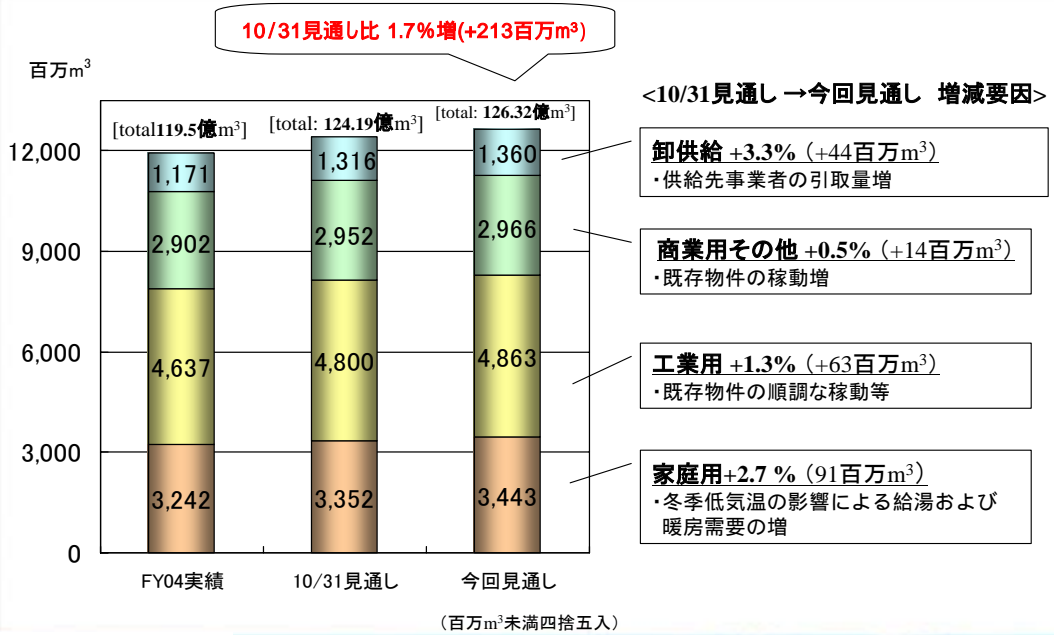


### 【営業利益増減要因(対10/31見通し比)】

- ・ガス部門は、冬場の低気温によるガスの拡販により、売上げが192億円増加するものの、これを上回る原材料費の増により、93億円の減少となる見込みです。
- ・ガス器具、受注工事、不動産賃貸、その他の各部門については、ほぼ中間期の見通しのおりと見込んでいます。



# ガス販売量見通し(連結)



## 【ガス販売量見通し】

- ・ガス販売量トータルでは、冬場の低気温の影響による家庭用を中心とした販売量の増加により、中間期見通しに比べ2億13百万m<sup>3</sup>増加し、126億32百万m<sup>3</sup>となる見込みです。
- ・各用途別の増減およびその主な要因については、上記に記載のとおりです。

## 参考資料



# 主要計数表(通期-①)

(億円)

	FY05 見通し	FY04 実績	10/31 見通し	対前期	対10/31
売上高	12,680	11,907	12,480	+773 (+6.5%)	+200 (+1.6%)
営業利益	980	1,453	1,060	-473 (-32.6%)	-80 (-7.5%)
経常利益	850	1,328	990	-478 (-36.0%)	-140 (-14.1%)
当期純利益	540	840	670	-300 (-35.7%)	-130 (-19.4%)
EPS(円)	20.47	31.47	25.41	-11.00 (-35.0%)	-4.94 (-19.4%)
TEP (東京ガス版EVA)	146	501	238	-355(-70.9%)	-92(-38.7%)
ガス販売量(百万m <sup>3</sup> )	12,632	11,952	12,419	+680 (+5.7%)	+213 (+1.7%)
為替(円/US\$)	112.83	107.55	109.74	+5.28	+3.09
原油(\$/bbl)	55.04	38.77	53.94	+16.27	+1.10
気温(°C)	16.2	17.1	16.7	-0.9	-0.5

# 主要計数表(通期-②)

(億円)

	FY05 見通し	FY04 実績	10/31 見通し	対前期	対10/31
総資産(a)	16,600	16,687	16,650	-87 (-0.5%)	-50 (-0.3%)
株主資本(b)	6,890	6,487	6,960	+403(+6.2%)	-70 (-1.0%)
株主資本比率(b)/(a)	41.5%	38.9%	41.8%	+2.6%	-0.3%
有利子負債残高	6,000	6,241	6,000	-241	±0
利益キャッシュフロー(c)	540	840	670	-300(-35.8%)	-130 (-19.4%)
投資キャッシュフロー (d)=(f)-(e)	50	327	20	-277(-84.7%)	+30 (+150%)
設備投資(e)	1,310	1,075	1,340	+235(+21.8%)	-30(-2.2%)
減価償却(f)	1,360	1,402	1,360	-42(-3.0%)	±0
フリーキャッシュフロー (c) + (d)	590	1,167	690	-577(-49.5%)	-100 (-14.5%)
ROA : (c) / (a)	3.2%	5.0%	4.0%	-1.8%	-0.8%
ROE: (c) / (b)	8.1%	13.5%	10.1%	-5.4%	-1.9%

(注) ROA=当期純利益/総資産(期首・期末平均), ROE=当期純利益/株主資本(期首・期末平均)

EPSの分母は期中平均株数

フリーキャッシュフロー=[利益キャッシュフロー(当期純利益)]+[投資キャッシュフロー-[減価償却費)-(設備投資)]